

第1回 麻生RS 学年保護者代表会議 議事録

■日 時：2021年4月25日(日) 15:30～17:45

■場 所：麻生スポーツセンター研修室

■参加者：

〈学年保護者代表〉

6年生 高垣、5年生 莊司、4年生 山田、3年生 伊藤、2年生 神下、

1年生 上田、幼稚園 塩田

〈チーフコーチ〉

5年生 菅田、2年生 原田、1年生 増田、幼稚園 岸田

〈スクール〉

統括副校長 河合、法人理事 山田、重住

(1) 開会の辞 山田

(2) 参加者の自己紹介

(3) スクールからの挨拶 河合

(4) 保護者代表会議の運営についての起案（配布資料に沿って概要説明）

- ・麻生RS運営理念と「保護者代表」会議 重住

法人化に伴い「保護者」と「コーチ」による新たなスクール運営への関わり方
保護者の支援によって「楽しいスクール活動」の実現を目指す

- ・議題と方向性 山田

学年間のコミュニケーションが少ない

保護者の意見を吸い上げる仕組みがない など

- ・保護者の役割 山田

保護者はスクール運営の一角を担う重要な参画者

イベントやコミュニケーションを通じて、保護者も楽しめるスクール活動

- ・運営体制の検討 山田

イベント・リーダーを選任し、スクールサポーターを割り当て各イベントを推進

- ・活動計画の策定 山田

上半期に運営方法を議論し、下半期より新運用を試行

- ・保護者会員規約の作成 山田

保護者の役割を明文化しスクール全体で保護者の活動を活性化

(5) 参加者による「課題の洗い上げ」についての意見交換（◆進行役からの発言）

◆「楽しいスクール」の実現を目指した保護者によるスクール運営の関わり方について、お気付きの課題を洗い出してください。

□5年生 莊司：

より楽しいスクールを目指す上で、最近「自分の子供を見たい」「自分の子供と一緒にラグビーを楽しみたい」という意向で入校される父親が少なくない。しかし親コーチの制約があるためにコーチの就任を躊躇してしまい保護者として関わっている父親が多い。

◆従来から麻生RSのコーチは2年生までは自分の子供の学年の指導に当たることが出来ますが、県大会が始まる3年生からは「親離れ、子離れ」して、自分の子供とは異なる学年を担当しています。しかし保護者からの意向もあり、コーチを増員するために、スクールとして、この「親コーチ」制約の4年生までの延長を試行中です。そこで幹部における「親コーチ」の在り方についての議論を、改めて保護者の方々にお伝えします。

□1年生 上田：

入校間もないために保護者による業務の全体像が掴めず未だ「課題」が分からない。
自らが何をすべきか分からない。 → 用具をコーチが運搬していることも最近知った。

◆麻生RSでは従来から保護者に過大な負担を強いないことを目標に、とりわけ低学年の保護者には子供たちの練習を見守っていただき、一定のスクール活動経験を経た5年生の父母にスクール運営業務のサポートを依頼してきた。

□3年生 伊藤：

コロナ禍以前の2019年までは4月の定時総会に併せて5年生母が「父母会」を開催し、主に入校間もないご父母向けに「保護者が参加する年間イベント予定」紹介し、また「保護者の関心事*」の解説を実施してきた。(*) 2019年は「マウスガード」について

◆2020年、2021年はコロナ禍のために、この「父母会」が開催できず、とりわけ2019年のW杯の後に入校された保護者向けに「保護者の役割」についての説明が出来ていない。

□3年生 伊藤（続き）：

4年生の後半には上級生の保護者から「5年生保護者の役割」を教えていただき、学年内で相互の役割を決めていく。

まず夏合宿への同行支援が可能な保護者 10 余人を決め、それが不可能な保護者の中から会計などの担当を割り当てました。その結果、これらの業務の推進を通して学年内の保護者間の絆が強まったと実感しました。したがって、資料の「保護者会 運営体制(案)」に示されたイベントの推進にあたって、夏合宿については 3~6 年生保護者が幅広く担当するより 5 年生を主体としたイベントリーダーによる推進の方が効率的だと思われます。

◆資料は汎用的なイメージ図であり、イベント毎にその運営に適した体制を保護者の皆さんで選んでいただければ良いと思います。これまで「入校の手引き」などのスクール活動の紹介資料に「保護者の役割」についての記述がなかったために、保護者の中には「5 年生になった途端に「保護者の役割」を割り当てられて当惑した。」という発言もありました。そこで、スクール活動における保護者の関わり方を皆さんで討議していただき、的確な手段で周知徹底を図りたいと思います。

□幼稚園 塩田：

未だ入校間もなく、自分の子供がスクールに定着するか見極めるのが精一杯であり、練習時に「保護者の役割」を考えるに至っていません。これまでのお話を伺って、保護者がスクール運営の一部でもお手伝いしてコーチの負担を軽減できれば幸いです、そもそも保護者が何をすべきか分からない状態です。

今でも幼稚園児はコーチの工夫で楽しく練習しているように映りますが、保護者の支援でミルキー全体が楽しめるような企画で出来れば良いですね。

◆先程、補足しました「父母の会」では、毎年、当該年度に企画されている行事における保護者の関わり方が説明されていましたが、昨年 2020 年にはコロナ禍で「父母会」が開けなかったので、担当の 5 年生保護者がその内容を補完するために「父母会たより」に記載して皆さんにお伝えしました。

□4 年生 山田：

まず保護者が担当すべきタスクの全体像を捉え、イベントベースで最適な運営体制を組成して効率的に推進することが得策だと思います。それを実現するためには、

- ・「保護者の役割」に該当するタスクを洗い出す。
- ・保護者のキャリアや特異な専門性などを把握する。
- ・実行タスクに対応した保護者をイベントベースで組織化する。

を経て合目的で効率的な体制を構築すれば過大な負担は回避できる。

◆今後、保護者が担っていただくタスクについては、これまでの保護者による関わりを踏まえて、改めて「保護者が子供たちのためにやってあげたい活動」「保護者にとっても楽し

い活動」という視点から洗い出していきたい。

◆「夏合宿の期間中は子供をコーチに預け、遅しくなって帰宅する子供を期待してください。」と表明して、夏合宿の運営に保護者の支援を仰がず、コーチだけで対応するスクールもあります。その実現可否には課題がありますが、これまでの前例に捉われず意見を出していきたい。

□4年生 山田(続き)：

現在、4年生では夏川チーフが極めてきめ細かく運営されており、傍目にも負荷が大きいのではと心配しておりますが、チーフから保護者に対しては業務支援の依頼はありません。
スクール活動における定型的な事務作業であれば保護者で肩代わりが可能です。

◆これは几帳面で生真面目な夏川さんの完璧主義がなせる事情でしょう。

□2年生 神下：

現在、高校3年生の長男が在籍していた約10年前の経験では、「親コーチ」はミルキー学年に限定すべきだと思います。高学年でも子供は親の前では「在るべき姿」を目指して萎縮しており、親が離れている時の方が「伸び伸び」しているのですが、親自身がそれに気付かず子離れできていないのが実情です。

折角、スクールに入校して第三者による指導の機会を得、「親」と「コーチ」による複眼的な成長支援が期待できるのに、「親&コーチ」による対応では客観性に欠けてしまいます。
第三者としてのコーチが信頼できないのでしょうか。コーチの方々も指導者研修やコーチングについての研鑽を重ねておられ、入校者は「親子は離れ離れ」で参加すべきです。

また保護者の役割として代表的な夏合宿の支援業務は、従来どおり5年生保護者が主体となって担当することが、連携も良く効率的な運営が可能だと思います。

日常的な毎週の練習においては、通常、保護者は、連絡業務、用具運搬、検温・消毒、出欠確認などの業務を担っていますが、コーチの負担をさらに軽減できる業務があれば、コーチから申告して欲しい。

◆かつてスクール行事の運営への保護者の関わり方を試行錯誤し、2018年には保護者が主体とり運動会を実施していただきました。事前準備としての種目の選定から競技の小道具の作成まで保護者が担当され、当日も保護者に進行を務めていただきました。コーチは保護者の指示の下で子供の誘導などの支援業務に徹しました。その時に中心的な役割を担わ

れた莊司さんに、保護者が主体となった行事運営の感想をお知らせ願います。

□5年生 莊司：

従来の運動会ではスクールが種目の段取り決め、保護者は子供と一緒に参加する立場でしたので、いきなり運営側となって戸惑いも多かった。まず幹事を担った保護者は試行の趣旨を熟知しているものの、保護者全員に周知させることは困難でしたので、保護者内での相談相手が限られ、コーチの補佐に助けられました。そして最後の「パン食い競争」で親子共々盛り上がり、楽しい思い出になりました。

したがって、行事の運営を保護者に丸投げするのではなく、保護者が主体的な役割を担うにせよ、コーチとの連携が大前提となります。

□6年生 高垣：

麻生 RS の「親に過度な負担を課さない」という伝統はありがたいが、そのためにコーチの負担が大きいのでは本末転倒であり、それぞれがその特徴を活かして「相互に無理のない」連携体制が築ければ良いと思います。

◆保護者の方の発言が一巡したところで、本日、陪席されている 4 学年のチーフにも「保護者の役割」についてのご意見を伺います。

□4年生チーフ 菅田：

保護者の皆さんによる「コーチの負担を軽減しよう」というお気持ちは大変ありがたいのですが、コーチ自身はスクール活動に携わることが「好き」でやっているのです、「過大な」負担感はありません。ですから、「コーチの負担」については余り気遣いは要りません。

私は 2 人の子供がスクールにお世話になり、いずれの場合もミルキーの頃は私自身が親コーチとして指導に当たり、ミニになると他のコーチに指導を委ねました。したがって、両方のコーチの立場を経験しており、改めて皆さんと意見交換したいと思います。

□2年生チーフ 原田：

私は今年初めてチーフに就任しました。昨年度まで所属していた学年には 4 年生から卒業までの 3 年間で担当したので、その学年内における「保護者の役割」は既に確立しておりました。したがって保護者の関わりを構築するのは今回が初めてで、私自身が模索中です。現在 2 年生に 23 人おりますが、その大半は昨年度に入校しており、コロナ禍のためにスクール活動が不規則な上に保護者との対面での説明機会も限られていたので、これから保護者の方々と新たな関係の構築に努めます。

□1年生チーフ 増田：

私も今年初めてチーフに就任しました。実は子供が麻生 RS を卒業してからコーチに就任しました。例えば、練習等に使う用具類は結構な量があり、コーチの間で適度に分担していますが、これらも保護者との相談で解決できたらと思いました。そもそも、保護者による支援を依頼しても構わない業務の全体を把握している訳ではありませんので、これから学年内のコミュニケーションを活性化して「楽しいスクール」の実現を目指します。

□幼稚園チーフ 岸田：

我が家では、私が「親コーチ」に就くことについて、むしろ子供が「えっ、パパと一緒にの？」と否定的です。そこで「親コーチ」については大人の視点からの是非だけではなく、子供の目線からのアプローチにも配慮して議論したいと思います。

入校して日の浅い幼稚園クラスの保護者との対話を起こすために、毎回「練習内容の報告」を配信し、まず共通の話題、共通の言語の創出に努めています。

◆現在、ミルキーでは毎回保護者宛に「練習報告」が配信されています。これらはスクールとして規則化されている訳ではありませんが、他人のお子さんを預かった責任を全うする上で必要最低限の礼儀に適うものと思います。

その結果、まず一義的には、保護者に練習の内容を知っていただき、親子でラグビーについての共通の話題作っていただく。また、コーチにおいても練習内容の変遷について共通の認識を確認する材料に成り得ます。そして、これらの記録の蓄積が「楽しいスクール活動」を創り上げるための貴重な情報インフラと成るはずです。これらの記録づくりにおいても保護者との連携が考えられます。

□1年生 上田：

一度、厚木 RS に入校した経験から、各学年の子供とコーチの顔写真と名前が掲載されているようなスクール名簿が配布される予定はないのでしょうか？

常日頃の活動が学年単位であるためにスクールの全体像が分かりません。他の学年の顔写真を眺めているだけで全体像が掴める訳ではありませんが、縦の繋がりや全体像を意識する契機には成り得ると思いますが、いかがでしょうか。

◆これまで夏合宿の実施の際に、3年生から6年生の顔写真を準備したことがありました。また低学年の保護者から、「上級生が通う小学校名を教えてください。」という要望を受けたこともありました。身近な先輩後輩の関係を知り、新たなママ友の開拓にも役立ったようでした。これらについては個人情報の扱いに留意して皆さんの役に立つ情報体制を構築

したいと思います。

□幼稚園 塩田：

スクールを活性化させるためには積極的なコミュニケーションの展開が有用であることは明らかであるが、保護者に何が期待されているのかが不明なままに「保護者 LINE」への加入を強要されたのでは躊躇してしまう方もいるはずです。そこで緊急連絡網としての LINE を超えた積極的なコミュニケーションを期待するならば、手間隙が掛かるかも知れませんが、保護者自身に「保護者の関わり方」を周知徹底させながら自発的な動きを促すべきだと思います。

◆スクールでは情報の共有化と的確な情報伝達を目指して、ここ 2~3 年掛けて HP の充実を図ってきました。未だ開発改善の途上ではありますが、新入校生の募集には大いに効果が挙がっていますし、コロナ禍で対面伝達が困難な環境下においても成果がありました。これらの共通の情報インフラを基盤に各学年内で保護者 LINE などが整備され、効率的な運営が進められていますが、ご指摘のように「保護者の関わり方」のコンセンサスが得られていないとツール網だけが発展してしまい、本来の目的を見失うことのないように留意します。そこで、この保護者代表会議こそが、新たな保護者の役割を創出し周知徹底させる礎となることが期待されています。

◆またスクールが法人化されたことにより、新たに地域への貢献も事業目的になりました。ここでも HP における情報蓄積を基盤に Facebook 等による情報発信を進めると同時に、保護者の方々にも「地域での在り方」についてのご意見を提案していただきたいと思います。

(6) 「学年保護者代表」会議の運営について

◆ここまで新たに配備された「学年保護者代表」の狙いを皆さんで共有していただくと同時に初代の保護者代表に選任された皆さんの抱負を伺って参りました。

これまでの麻生 RS では 5 年生の保護者にスクール業務の一部を支援していただいていたが、その具体的な推進方法は保護者による記録メモと口頭による伝承で代々伝えられています。これらの蓄積で保護者の支援業務の大筋は体系化されてはいるものの、毎年の申し送りだけでは必ずしもノウハウは蓄積伝授されず、新たな改善案の取り入れもないままに繰り返されているのが実情でした。しかし、その実態さえコロナ禍においては持続することが困難であり、ここに保護者の関わり方を見直すことが急務となりました。

そこで、保護者の皆さんにご検討していただくためには、従来のようにスクール活動の経

験が抱負な上級生だけに限らず、ミルキーを含む全学年における実態を反映すべきと考えました。その結果、兄弟がスクールに在籍され 10 余年も活動をご支援いただいている保護者と入校間もなく過去の経緯をご存知ない保護者が同席されることとなりますが、それ自体が本会の目的でもあり、保護者にとっても良き伝統は残しつつ、常に新しい視点で見詰め直しながら改善を図っていきたいと考えています。

このような趣旨で、初回のここまでは事務局が進行を務めてまいりましたが、ここからは、まさに自主活動組織として皆さんで進めていただきたいと存じます。そこで初年度の取り組み役として、お手元の資料の骨子を作成していただいた「6 年生の高垣さん」に議長をお願いしたいと存じますが、皆さんいかがでしょうか。

□参加者一同：

意義なし。

◆それでは高垣さんに、これからの議事進行をお任せし、スクール側は本会議の推進する事務局に徹しますので宜しくお願いします。

□高垣議長：

ここまで初回の顔合わせを兼ねて、それぞれのお立場で気付いた課題を洗い出していただきましたが、これを皮切りに上半期に当面の「保護者の役割」を固め、下半期から徐々に運用したいと考えていますので、宜しくお願いします。

現状では、未だ毎週、日大稲城グラウンドを使用できる状態ではないので、毎週の練習グラウンド予定の連絡が最重要情報と位置付けられていますが、本来スクール全体の活動概要を知らせる「(仮称)スクール通信」が配信されても良いと思います。例えば、ミルキーの保護者がミニの活動を知ることによって全体像を理解する契機にも成り得ます。最近では、コロナ禍の中で 6 年生がヒーローズカップや神奈川ファイナルカップに参戦した様子をスクール全体に周知し、全学年で 6 年生を応援する機運を醸し出しても良かったのではないのでしょうか。この「スクール通信」には、各学年の活動やスクール幹部会での審議課題などが紹介されてはいかがでしょうか、その制作にはスクールからの情報提供が不可欠ですが、保護者による記事の企画や執筆には保護者の関与が可能だと思います。

□3 年生 伊藤：

これまでの「父母会だより」の発行を既成事実と捉え、それを継続して発行すべきと考えて欲しくない。2019 年は「父母会」に出席されなかった入校間もない保護者向けに母親目線によって初めての方にも分かり易い資料を届けることが狙いでした。また 2020 年はコロ

ナ禍でほぼ全ての行事が中止になってしまったので、特に W 杯以降に入校された保護者向けに、通常の年の行事などの活動を「父母会だより」の発行によってお知らせして「楽しいスクール」を疑似体験していただきたかったのです。このように明確な広報目標を共有化できれば、多少煩雑な業務も遣り甲斐があり、皆さんの協力が得易いと思います。しかし、「情報の継続発行」そのものが目的では無理矢理の企画倒れを起こしかねません。

□2 年生 神下：

本会議で「保護者の役割」を白紙から考えるより、予め各学年のチーフから「保護者に期待する役割」をヒアリングしていただければ、より効率的な検討が出来ると思います。

⇒ 各学年チーフコーチを通じてコーチ陣が思う「保護者へ期待すること。お願いしたいこと」を 5 月中旬までに集約して次回の『学年保護者代表会』にフィードバックする予定。

□高垣議長：

それでは、今後の本会議の進め方とスケジュールを提案します。今回は初回でもあり、敢えて対面型式で開催いたしましたが、続く数回の審議は皆さんの都合を勘案して週末に Zoom 方式で以下の事項について意見交換を行いたいと思います。

◇5 月

- ・課題の洗い出し
- ・保護者の役割

◇6 月

- ・運営組織の作り方 ⇒ 運営方法の検討 ⇒ 活動計画の立案

以上をもって散会。